

協働のまちづくり大賞

平成23年度 応募事例



平成24年10月

大分市

目次

協働のまちづくり大賞について	1
----------------	---

◆【自治会活動部門】 23年度優秀賞

● 班長を中心に据えたまちづくり・自治会の記録ノート作成／中島西自治会	2
-------------------------------------	---

23年度奨励賞

● 次世代リーダーの育成／大道町2丁目町内会	5
● 高齢化率が高い町内のまちづくり／荏隈町自治会	7
● 人と人とのつながり、絆づくり／南太平寺町内会	9
● 5つのマナー改善の取り組み／法勝台自治会	11
● 「安心・安全・きれいな町づくり」へ／望みが丘自治会	13

応募事例

● 花咲か爺さんプロジェクト／上野丘1丁目自治会	15
● メダカのすむ、ホタルの舞う川づくり／東春日町自治会	16
● 新旧住民の連携融和を図るための取り組み／生石港町自治会	17
● 手づくり町内会報の発行／東大道2丁目町内会	18
● 全戸参加の防犯パトロールと「いこいの丘」づくり／季の坂自治会	19
● 地区内伝統行事の継続と発展／東八幡自治会	20
● 出産祝金制度の創設／二又町内会	21
● あいさつ運動と防犯パトロール／羽屋町内会	22
● 互いに理解し、心を開き、助け合う自治会づくり／永興自治会	23
● まちづくり協議会による自治会運営とOJTによる人材育成／新貝自治会	24
● グミの木・かずら伐採大作戦／公園通り自治会	25
● 梅が丘納涼広場（まつり）の企画運営／梅が丘西町自治会	26
● 集落内道路付近の立木の伐採と草刈／伊与床自治会	27
● ゴミステーションの美化活動／敷戸新町2区自治会	28
● 高齢者が参加しやすい自治会づくり／光吉新町自治会	29
● ふれあい広場（秋のおまつり）の企画・運営／ふじが丘山手区自治会	30
● 青壮年部会による勉強会の開催と人材育成／大柳自治会	31
● 地区独自の工夫を加えた災害マップ／大在浜自治会	32
● 住みたくなるまちづくり「花いっぱい運動」／平野自治会	33
● 新旧住民の交流と若者の自治会活動参加を促す取組／横塚自治会	34
● 北区「子ども見守りたい」／北自治会	35
● 久土地域フォーラムの立ち上げ／久土自治会	36
● 大分東高校と連携しての花いっぱい運動／川南自治会	37
● 市西防犯パトロール隊／市西自治会	38

◆【自治会連携部門】 23 年度優秀賞

- 地域の連携を高めるきっかけづくり

／敷戸校区ふれあいフェスティバル実行委員会・・・・・・・・・・39

23 年度奨励賞

- シバザクラ・文化祭による団地内活性化／富士見が丘連合自治会・・・・・・・・・・41
- 徒歩・自転車による町内パトロール／久原区防犯パトロール隊・・・・・・・・・・43

応募事例

- 地域・世代を越えた交流／荏隈校区自治委員連絡協議会・・・・・・・・・・45
- LED防犯灯で町も自治会活動も明るく／松が丘連合自治会・・・・・・・・・・46
- 大成功したかかし祭りでの地域活性化／植田校区公民館運営協議会・・・・・・・・・・47

◆【自治会支援部門】 23 年度優秀賞

- 地域の連帯感を創出した昔の遊び体験／東大分匠の会・・・・・・・・・・48

23 年度奨励賞

- 地域の特性を活かし、連携をとって活性化に／くすのき会・・・・・・・・・・50

応募事例

- 勇気と希望を与えるフラダンス／しあわせの会（健康フラダンス）・・・・・・・・・・52
- 見守り活動で 10 年間事故ゼロ／けやき台老人会・・・・・・・・・・53
- 地域の財産を守る縁の下の力持ち／嶺老人会・・・・・・・・・・54
- 自治会行事に積極的に参加／敷戸エイトクラブ・・・・・・・・・・55
- 地域をあげてのふれあい体育祭／敷戸校区体育協会・・・・・・・・・・56
- 高齢者も楽しむ軽スポーツを自治会と連携してサポート／さんさん（燦燦）会・・57
- 出来る範囲で清掃活動・自治会との協力／老人クラブ（長寿会）・・・・・・・・・・58
- 和服のリフォームで社会貢献活動／ボランティア「秋桜の会」・・・・・・・・・・59
- できることから社会貢献／やまゆりの会・・・・・・・・・・60

協働のまちづくり大賞について

本市では、平成23年度に自治会サポートプランの一環として「協働のまちづくり大賞」を創設し、自治会・町内会やその活動を支援するNPO法人、ボランティア団体・事業者等が行っている住みよいまちづくりのための活動事例を募集しました。その結果、単独の自治会活動に30団体、自治会が連携して取り組む活動に6団体、自治会を支援する活動に11団体の全47団体からのご応募をいただき、その中から特に他の模範となる優秀な活動を、優秀賞、奨励賞として表彰いたしました。

この度、平成23年度に応募のあった全ての活動事例をまとめた事例集を作成いたしました。この事例集が、皆さんの今後のまちづくりの参考になるだけでなく、今まで自治会活動に関心のなかった方たちにも皆さんの活動を知っていただき、関心を持つきっかけになればと考えています。

表彰の部門・受賞団体

○自治会活動部門

単独の自治会・町内会での取組

☆【優秀賞】 中島西自治会

【奨励賞】 大道町2丁目町内会

荏隈町自治会

南太平寺町内会

法勝台自治会

望みが丘自治会

○自治会連携部門

複数の自治会・町内会が連携した取組

☆【優秀賞】 敷戸校区ふれあいフェスティバル実行委員会

【奨励賞】 富士見が丘連合自治会

久原区防犯パトロール隊

○自治会支援部門

NPO法人、ボランティア団体、事業者

などが自治会・町内会を支援する取組

☆【優秀賞】 東大分匠の会

【奨励賞】 くすのき会



※会長名については平成23年度当時の方を記載しています。

		Date	
参加人数	大人	約 90人 (予想 100人)	
(概数)	子供	約 60人 (" 150人)	
		<大人>	<子供>
景品	準備数	120 (フーザバッグ)	120 (お菓子)
	残り実数	8	34
		※ 残りについて、敬老会景品として使用する	
気付いた点	<ul style="list-style-type: none"> ・盆踊りに来て来る家族も多い (7時40分頃から) ・途中で帰る人はほとんどいない ・室内が少し暑いので、氷水を用意したほうが良い ・早目に終了して良かった (8時30分) ・全体的にスムーズに進行でき、盛況だった ・盆踊り途中の休憩は少し短かくても良いかも ・参加人数予想は難しい、子供は特にわからず。 		

自治会の記録ノート

班長を中心に据えたまちづくり・自治会の記録ノート作成

自治会活動部門
23年度優秀賞

中島西自治会
会長 竹上 健司

き
っ
か
け

自治会の会則・細則等もなければ、総会の開催が一度もない。市内中心部に位置し、集合住宅と単身世帯が多いという地域環境からか、ほとんどの住民が自治会行事には無関心で、ごく一部の方々で運営されていたために、住民同士のつながりが全くないという状況であった。

現在の状況が続けば、中島西はますます衰退してしまうのではないかと考え、平成22年から「地域住民に開かれ、活力ある自治活動の推進」を目標に掲げて、自治会の改革に取り組んだ。

活
動
内
容

① 自治会会則・細則等の作成

自治会の体系化・組織化を図るため、自治会会則・細則・役員選考会細則を地域の実態に合わせて作成した。

② 中島西地域のまちづくり「アクション」事業運営方針の作成

「会員相互のふれあい、親睦を深める事業の推進」「青少年の健全育成」「高齢者との連携、支援、交流」「みんなの健康づくり・介護予防の推進」「生活環境、整美、生活ルール、マナーの向上」「初盆供養祭並びに初盆供養盆踊り大会の開催」「安心・安全で住みよいまちづくり」の7本のまちづくりの視点（観点）を自治会運営の中心に据え、具体的な行動目標を作成した。

③ 班長の大幅増員と班長を中心に据えた行事運営

自治会活動の活性化を目指すためにも、班長の存在が重要であると考え、従前は21人であった班長を31人に増員。分譲・賃貸マンションや社宅からも班長を選出することとした。

また、1〜3丁目の各班長会に自治会の三大大行事（慰霊祭と供養盆踊り・敬老会・ふれあいバス旅行）を割り当て、班長会が企画・運営し、自治会は側面的な

支援に徹している。

④ 中島西自治会だよりの作成

行事の様子や自治会の取組みを紹介する「中島西自治会だより」を作成し回覧することで、全住民で情報を共有するとともに、参加を呼びかける。



⑤ 「記録ノート」の作成

行事を企画・運営するにあたっての会議の内容や、行事で工夫した点、課題と

感じた点などが記載された記録ノートを作成し、翌年度の担当者に引き継ぐようにした。

工夫している点・アピールしたい点

行事づくりに関わっていく人が広がっていき、住民が当事者意識を持って主体的に自治会活動に参加できるように、行事は各丁目に毎年ローテーションで回していく。

次の丁目に引き継ぐ際に、「記録ノート」も一緒に引き継ぐため、成果や課題の共有ができ、次の活動に活かす事ができている。また、ローテーションを継続していけば、より多くの住民が自治会行事に関心を抱き、主体的に参加することができるようになっていく。

このようにすることで、自治会運営のワークシェアリングができ、一部の人に負担が偏らないようになっていく。

記録ノートを作成することで、年々行事内容が充実され、行事への参加者が急増した。主催した班長たちが喜びと達成感を共有するとともにコミュニケーションが深まり、互いに協力し合って工夫・改善しようという思いが感じられるようになった。

また、行事が活性化したことで、今まで全く面識のなかった住民同士が路上・店先等で気軽に挨拶し、語り合いを始める光景が伺えるようになってきた。

今後は、班長会、役員会、評議委員会等の会議をより充実させていき、よりよいまちづくりに取り組んでいきたい



慰霊祭の様子



供養盆踊りの様子

次世代リーダーの育成

自治会活動部門
23年度奨励賞

大道町2丁目町内会
会長 東村 健市

き
っ
か
け

自治会活動に参加する人が不足し、その結果、次世代を担う人材も不足していた。

活
動
内
容

青壮年会として町内の20代〜70代の幅広い年代の有志が集まり、自治会活動を全面的にサポートしている。(具体的な活動としては、次のとおり)

- ① 自治会行事の全てに参加し、準備段階から協力。
- ② 集合住宅を戸別訪問し、自治会加入の呼びかけ。
- ③ 子ども達に地元の太鼓などの伝統芸能の継承を行う。

- ④ 防災と不審者撲滅の為の夜間パトロール。



防犯・防災パトロールの様子

工夫している点・アピールしたい点

自治会活動に積極的に参加する団体を自治会内で組織することで自治会活動に参加する人員を補足することができるだ

けでなく、若い世代の会員にとっては、自治会行事のノウハウや楽しさを学ぶ場にもなっており、次世代のリーダーの育成にもつながっている。

その結果、老齢層だけでは取り組みにくかった夜間の警備パトロールなどの実施も可能となるなど、自治会活動に幅をもたせることができるようになった。

さらには、伝統芸能の継承の際に、子ども達に挨拶や礼節についても教えることで、青少年の健全育成にもつながるように取り組んでいる。

活動の成果・今後の展望

様々な自治会活動の運営に携わり、失敗や成功を体験することのできた若い人達が、自治会活動の中で自分たちの考えを積極的に言い、活動を引っ張ってくれるようになり、次世代のリーダーとしての素質を開花させた。

また、若い人達によって活動が活性化されたことにより、マンションの住民な

ど、以前は自治会活動に消極的であった方々も含め、多くの住民が積極的に参加してくれるようになった。

さらには、伝統芸能の継承を通じて大人と子どもにつながりが生まれ、子ども達の挨拶が増えるなど、青少年の健全育成の成果も上がっていることを実感している。



若者と力を合わせてソフトボール大会準優勝



町内住民の多くが参加した校区大運動会で優勝した時の様子

高齢化率が高い町内のまちづくり

自治会活動部門 23年度奨励賞 荏隈町自治会 会長 中山 二郎

き っ か け

70歳以上の高齢者が34%、65歳以上が42%と、町内の高齢化が進んできたため、地域づくりには高齢者の自助・共助が不可欠となっていた。

そのため、地域の諸行事・諸活動を見直すとともに、民生児童委員等それぞれの役職が縦と横の連携をとり、真に高齢者にとって住みよい「絆のまちづくり」を推進することとした。

活 動 内 容

任意加入の老人クラブを発展的に解消し、70歳以上全員加入の老人会を立ち上げた。(会員54名から278名に増加。会費は当分の間徴収せず)。班長と同じく丁目ごとに理事を選任し、町内会役員として会員の把握と連絡調整にあたった。

また、行政より委嘱を受けた民生児童委員、健康推進員をはじめ、ボランティア

ア、防災士、老人会などの各推進役を地域諸活動の要所に位置付けし、様々な活動の中で連携をとりながら、活動するよ
うな体制づくりを行った。



荏隈ガーデンのひまわり

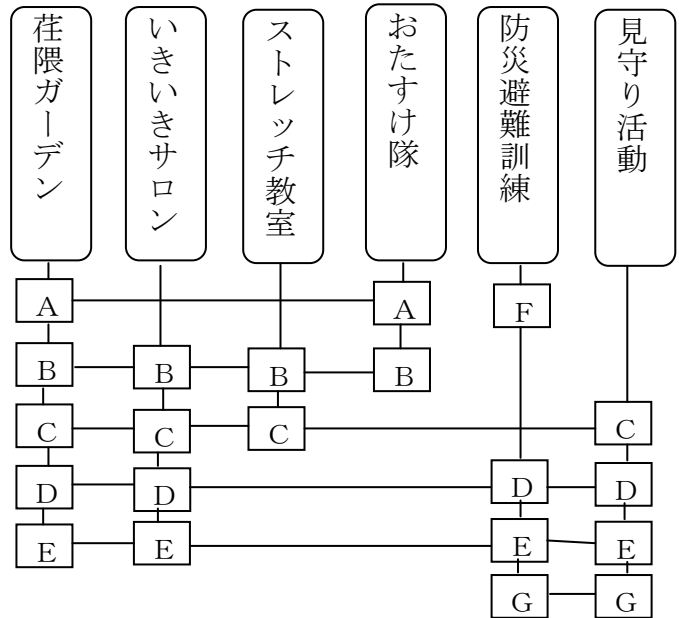
注 1

- A : 協力者
- B : ボランティア
- C : 健康推進員
- D : 民生児童委員
- E : 老人会理事
- F : 防災士
- G : 班長

注 2

荳隈ガーデンとは？
同好会、協力者による育苗、
花苗配布等の花いっぱい運動

※注1、注2参照



工夫している点・アピールしたい点

① 任意加入では加入者が限定され、未加入の高齢者が疎外感を感じていたが、全員加入としたことで初めて地域の中に位置づけられ、地域との連帯感を深めることができた。

② まちづくりの原点は、市よりの委嘱を受けた各役職の位置付けと、地域諸活動の横の連携にある。諸活動の責任者とそれを支えるスタッフの間に適切に位置付け、たて糸とよこ糸が確かに織り成されてこそ、活動の活性化につながる。

活動の成果・今後の展望

役職間や各活動責任者との連携が図られたことにより、諸行事・諸活動の

参加者が増加し、活動が活発になっただけでなく、会員相互の交流も盛んに行われるようになった。

また実績として、荳隈老人会の活動が認められ、平成23年8月に、全国老人会クラブ連合会より「仲間作り部門」2011活動賞を受賞し、荳隈ガーデンでは、市緑化推進委員会が行う「ひまわりコンクール」で22・23年度連続の優良賞を受賞した。

今後は、この成果を踏まえ、さらに工夫改善を加えながら、町内に自助・共助の気運が漲り、「荳隈町」が「絆のまち」と誇れるよう一層の推進を図りたい。

人と人とのつながり、絆づくり

自治会活動部門
23年度奨励賞

南太平寺町内会
会長 橋本 邦雄

き っ か け

地域の都市化（マンション・アパート群の急速な林立と開発）に伴い人間関係が希薄化し、ふれあい・交流が地域に見られなくなっていた。

活 動 内 容

「絆づくり」をキーワードに掲げ、「集う（と）にかく集まる（つ）・ふれあう（お互いに交流を図る（つ）・つながる（お互いの絆を深めよう）」という趣旨を生かした以下の事業を構想、実施。一貫して基底に流れているものは、人と人とのつながり、絆づくりである。

① **南太平寺町内ふれあい散歩**
平成18年より「近所同士の顔見知り・顔つなぎをしよう」という趣旨で、町内の組（班）「ついで」週2回散歩する。

② 子どもを守る安全パトロール

平成20年より「南太平寺こども安全パトロールの会」を立ち上げ、町内3箇所、二人組で毎日パトロールを継続している。

③ 杵築社（氏神様）年越し竹とろうまつり

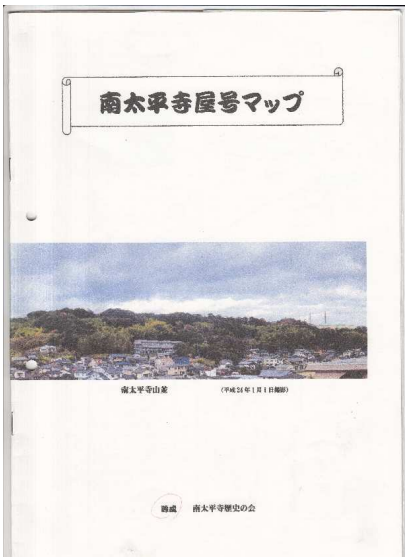
南太平寺を元気にしようという趣旨のもと平成21年より実施している。

④ 一人暮らしの高齢者等を支えるネットワークづくり

町内全体で一人暮らしの高齢者等を支えるネットワークをつくり（地域の方にボランティアで協力者になってもらい、要支援者宅にいつもと変わりがなければの確認や、定期的な訪問、声かけなどを行う。）、「みんなで支え、見守り、助け合いながら「ぬくもりのある町づくり」を行っている。

⑤ 歴史散歩の実施と南太平寺歴史マップ、南太平寺屋号マップの刊行

町内外の由緒ある史跡等について、文献等を読んだり、実際に歩いて調べたりすることによって、地区住民が気軽に、地区の歴史を学んでいる。



⑥ 防災訓練

町内の組(班)ごとに少人数で集まり、防災意識を高めあっている。

工夫している点・アピールしたい点

① 南太平寺町内ふれあい散歩の際には、その都度組長さんが「ふれあい散歩ノート」をつけており、その声を時々町内会報「絆」で紹介し、モチベーションづくりを図っている。

② 子どもを守る安全パトロールでは、子ども達とのふれあいはもとより、町民相互の交流・ふれあい(二人組のメリット)も深まっています。

③ 事業は何年かすると必ずマンネリ化するため、年ごとに(※1)P・D・C・Aのサイクルで取り組みの見直しを図っています。

※1 P・D・C・Aサイクルとは？ ↓
Plan (計画)・Do (実行)・Check (評価)・Act (改善)の4段階を繰り返すことで、業務を継続的に改善するサイクルのこと。

活動の成果・今後の展望

誰もが参加しやすい決め細やかな住民に浸透した活動を通して、住民一人ひとりのふれあい、つながりが見られ始め、交流が深まってきているだけでなく、町づくりを支える新たなリーダーも育ってきている。

5つのマナー改善の取り組み

自治会活動部門
23年度奨励賞

法勝台自治会
会長 姫野 力

き っ か け

ご近所の挨拶がない、痴漢の出没、子どもの飛び出し事故多発、ごみ出しマナーの悪化など、住みにくい自治会（まち）になっていた。

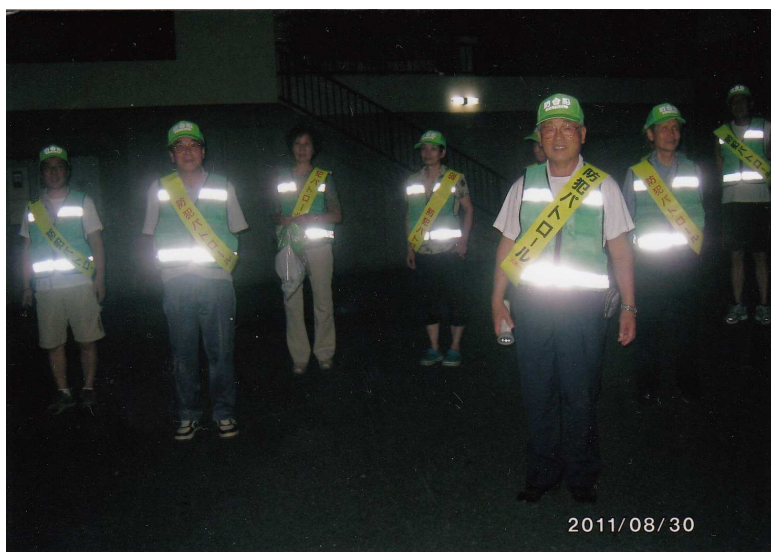
活 動 内 容

5つのマナー改善の取り組み

- ① お互い「ありがとう」を交わそう。
- ② 駐車違反を止めよう。
- ③ 生垣の剪定をしよう。
- ④ ごみの選別をきちんとして正しく出そう。
- ⑤ 犬の糞の後始末をしよう、猫も回りに迷惑をかけないように飼おう。

○防犯パトロール

月3回自治会、老人会、子ども会、中学生保護者、各専門委員等を中心に実施。防犯パトロール中には、5つのマナーの改善の呼びかけ、朝の挨拶運動、子どもたちの途中までの見送り、公園や空き地・空き家の点検、拍子木を叩いて火の用心の呼びかけなどを行う。



防犯パトロールの様子

○各種会議の開催

役員、班長、副班長会議を月1回、班長会議を年2回以上行う。

○公園の清掃

各班に割り当て、月1回の除草、清掃を行っている。

また、自治会役員、老人会などで、清掃の他に年3回（春、夏、秋）公園の花の植え替えを行っている。



公園の花の植替えの様子



公園のいっせい清掃の様子

活動の成果・今後の展望

これらの取組みを通して、自治会、老人会、子ども会等との連携が図られたことで、諸活動が活発になり、広がりも見られるようになった。

ごみ出しや、犬の糞の処理といったマナーの問題が改善されてきているだけでなく、自治会内の美化が図られ、生垣の剪定や駐車違反の車がなくなっただけで、見通しが良くなったことで、子どもの飛び出しや痴漢騒動もなくなった。

今後は、地域外からの車のゴミの投げ込みや犬の散歩に来る人達や公園に遊びに来る人達のマナーの向上を願っている。

工夫している点・アピールしたい点

毎月の役員、班長、副班長会議と年2回以上の班会議で、問題点の早期提示と早期解決を心掛けている。

班長、副班長も問題点が見つかったと、すぐに自治会役員会に出せるようになってきた。

「安心・安全・きれいな町づくり」へ

自治会活動部門
23年度奨励賞

望みが丘自治会
会長 上野 榮一

き っ か け

平成11年の自治会の発足以降、住民の親睦と融和を目的に公園の美化活動は行ってきたものの、宅地周辺・道路周辺等の公共用地の美化・整備活動は未着手だった。

また、防災危機管理意識の向上の取組みとしては、平成14年に消化訓練を行ったのみで、住民の危機管理意識はきわめて低かった。

さらには、不審車両や不審者、家宅侵入等の窃盗犯罪が増加したことを背景に、既存の見守り隊並びに警察署の巡回強化を行ったが減少には至らなかった。

住民にとって、安心・安全で住みよいまちにするためにも、これらの対策が必要であった。

活 動 内 容

「安心・安全・きれいな町」を目指し、以下の事業を実施。

① 全戸全班による一斉清掃

当地区の全面積を地形に合わせて大きく7つのエリアに分割するとともに、自治区内全23班を7グループに編成して、各グループが助け合いながら、年3回（春・夏・秋）草刈り・草取り・ごみ拾いに重点を置いた清掃活動を実施している。

② 自主防災会を中心とした防災訓練の実施

平成18年に、当地区初の防災士が誕生。防災組織を編成する。

平成19年4月に、全戸配布の団地新聞に防災士の誕生と、訓練計画を掲載し、全戸に周知する。

以降半年をかけて防災訓練実施要領を策定し、平成19年12月に防災訓練を実施。380名の参加を得た。

以後、毎年防災訓練を実施し、平成23年度で5回目となったが、毎回300名を超える参加者を維持している。

また、合わせて火災警報器の設置促進

に関する活動も行ったところ、設置率79%を達成。現在は消火器との併設促進活動に取り組んでいる。



平成23年度防災訓練の様子

③ 全戸全班による防犯パトロール

平成18年に「望みが丘自治会防犯パトロール隊」を結成し、防犯パトロール活動を開始した。

活動開始後から、住民の意見を積極的に取り入れ、活動方法を順次見直していった結果、現在ではこの活動が定着し、日常生活の一部となっている。

工夫している点・アピールしたい点

どの事業においても「自助・共助・公助」を念頭に、「協働のまちづくり」を目的に実施している。

○月刊誌として全戸に配布している団地新聞に防災ミニ知識を掲載し、知識を共有。

○防災会の班長、副班長は1年に1戸進む仕組みにしており、1戸が3年間防災訓練に関われるようにすることで、必然的に防災意識と連携が高まっている。

○警察との連携を密にして、情報の共有が必要な事項については、毎月1日発行の地区新聞で全戸に周知し、警戒に当た

っている。

○防犯パトロールは、あえて自治会主導ではなく実施時間・場所などの実施方法についての詳細を班毎に決め、「いつ・どこで・誰が・どんな方法で」パトロールしているかを分からなくすることで、犯罪者が行動し難いようにしている。

活動の成果・今後の展望

従来からある子ども会などの見守り活動や青色パトロール隊との相乗効果もあり犯罪発生件数は激減している。これらの活動を通じて住民の意識は変わってきており、従来は仕方なく参加する姿が多く見られたが、今は全ての活動において多くの方が自主的かつ積極的に取り組むようになった。

また、住民同士の交流も深まりまさに「向こう三軒両隣」の意識が高まっている。

花咲か爺さんプロジェクト

上野丘1丁目自治会

会長 是永 佑一

き っ か け

町内のみんなが心ひとつで協力し合っていた時代に行われていた「墓地公園桜祭り」が終わった頃から、町内の協働がなくなり、意思疎通が思うようにならなくなった。町内会の「絆」を取り戻したいという思いから、桜の再生を試みた。

活 動 内 容

平成22年6月から毎月第3土曜日に町内ボランティアグループを中心にした町内会員が、公園の清掃活動や桜の生育を妨げ、防犯灯の明かりの支障になっている他の樹木の枝の伐採、植樹、老朽化した桜の枯れ枝、病気罹患部分の除去、その切り口への雑菌剤の塗布などの桜再生のための活動を行っている。

現在この活動は「花咲か爺さんプロジェクト」と名づけられ、地域の多くの方の参加の下、継続されている。

工夫している点・アピールしたい点

「協働のまちづくり」の精神で、町内で出来ることは町内で行い、費用の必要な桜の苗木、土、土壌改良剤、添え木などだけ行政から支給を受けるなど、できるだけ費用をかけずに行っている。

活動の成果・今後の展望

子どもから高齢者までが参加して一緒に活動することで、町内の絆が深まっている。家に閉じこもりがちであった高齢者からは、「昔を思い出し活動に参加したことで大きな生きがいになった」など、感謝の声も上がっている。

また、上野ヶ丘中学校生徒会から作業への協力の申出があり一緒に作業するなど、他地区との絆も深まるとともに、ふるさとでの自然を守る道徳教育にも生かされている。上野ヶ丘中学美術部が作成した「ポスター」が、画廊・コンパルホール・老人ホーム・銀行のロビーで展示され、広く市民の注目を集めた。

さらには、暗く犯罪の温床だった公園を明るく見通しの良い憩いの場所に甦らせることができた。

今後、青少年の自然観察や教材としての役割、ウォーキング・散歩の場所として、いかに多くの市民が来てくれるか活動しながら見守りたい。

メダカのスむ、ホタルの舞う川づくり

東春日町自治会 会長 近藤 忠志

き っ か け

住吉川の支流である春日放水路への後を絶たないポイ捨てと悪臭に地域住民が困っており、住みにくい町だと感じていたため、川の浄化に取り組むことになった。

活 動 内 容

平成15年

「メダカのスむ、ホタルの舞う川づくり」を自治会総会で決定する。

平成16年

11戸の住民にメダカの成魚を配布。また道路クリーン推進隊を結成し、川底のごみ拾い等を行いメダカの住める自然な状態を作る。

平成17年

メダカの幼魚が増えたので子供会に呼びかけ、放流。

平成18年

NPO法人と合同で水質改善についての協議を重ね、実験を実施。光合成殺菌の散布と川ニイナを放流する。

平成19年

「川ニイナ」が育っているのを確認しホタルの親を放つ。

平成20年

ホタルの幼虫を富士見が丘公民館長より分けてもらう。

平成21年

河岸の草の中で、ホタルが飛ぶのを町民が見つける。

工夫している点・アピールしたい点

ホタルの成育環境を保全するため、できるだけ自然な状態を保つようにしているが、自然な状態を保つと雑草が繁り、町民からの苦情もあるため、解説の看板などを作り、理解を求めている。

活動の成果・今後の展望

住吉川に生物が増え、住み着く状態になるとともに、悪臭も消え、ポイ捨ても少なくなった。また、多くの方がメダカやふな、ホタルの鑑賞に来てくれるようになり地域コミュニティの醸成も図られた。一町内事業を他の町内でも広め、自然を感じるまちづくりを進めたい。大分市が「日本で一番住みよい町」にできたらと思う。

新旧住民の連携融和を 図るための取り組み

生石港町自治会
会長 田中 昭欣

き っ か け

地付きの住民と新しい住民（マンション住民等）とが混在するため、地区内は連携が不足しており、地域コミュニティの再生を図る必要があった。

活 動 内 容

① 子ども会との交流(子ども会、自治会、老人会の三世代交流)

年2回新旧住民を交えた三世代の交流会を開催(クリスマス会、餅つき大会)。子ども達の父兄も参加し、つきたての餅を町内の高齢者に子ども達が配布。

② 子ども見守りパトロールの実施

毎月第1〜第4の月曜日・水曜日に、新旧住民と一緒に活動するようにスケジュールを組み、子ども達の下校時、通学路で交通整理のパトロールを実施。

③ 住みよい町づくり、安全安心対策、美化活動

国土交通省大分河川事務所と老人会で美化活動の協定を結び、毎月第1・2・4金曜日、別大国道(生石〜白木)、かんたん港園のごみ拾いを実施。

④ 柞原八幡宮の夏越祭として海岸での汐掻神事をサポート、子ども神輿の巡行。

⑤ 町内の福利厚生事業(慰安旅行、花見会、新年会)

工夫している点・アピールしたい点

○「地域コミュニティの再生」「安心・安全のまちづくり」を推進していくために、各組の責任者(班長)に意見を求め、地域住民の意見を取り入れている。

○町内会費の費用対効果を上げるため、市の助成金等を活用して積極的に事業を実施している。

活動の成果・今後の展望

○子ども達の挨拶が会うたびに目立って多くなった。

○別大国道の清掃はごみ拾いが主体であるが、歩くことにより高齢者の健康づくりに貢献している。

○将来の大分港(生石港町)の活性化のため、新旧住民の交流を含め、三世代の連携に積極的に取り組んでいきたい。

手づくり町内会報の発行

東大道2丁目町内会
会長 福島 功

き っ か け

市報をはじめ新聞雑誌・テレビ・ビデオと世の中の情報は溢れているにもかかわらず、1番身近な校区や町内の情報が町民に提供されておらず、その動きが理解されていなかった。

活 動 内 容

地区内の住民に校区や町内の行事等に対する興味や関心を持ってもらい、支援・協力を得ることを目的に、平成17年から町内会会員への情報伝達方法として、毎月2回の市報配布にあわせ「町内会報」を回覧。現在164号に至る。

○町内会報の主な内容

毎月1回行われる大道校区全体会議の内容の報告や校区行事や町内会独自の行事等への参加協力呼びかけ、結果報告をすることにより校区の動きを伝える。

○原稿は子ども会、老人会、自主防災会、健康推進委員、小地域福祉ネットワーク、青少年委員、環境推進委員、交通安全委員等、町内組織の代表から提出願う。

工夫している点・アピールしたい点

高齢者がますます増加する中で、写真を使うなどして、誰が見てもわかるような紙面になるように心がけている。

活動の成果・今後の展望

○校区や町内で何がなされ、会員がどのように協力していけばよいかを理解し、町内会会員の校区や町内独自行事への関心が高まり、参加・協力が増した。

○今後、一層内容を充実させることにより、会員相互の連携強化に努め、協力体制を充実させていきたい。

全戸参加の防犯パトロールと 「いこいの丘」づくり

季の坂自治会
会長 安部 壮人

き っ か け

○平成19年10月に自治会内で放火事件が発生、平成20年には電気系統からの火事が発生。また、自治区内に不審者が出没するなどし、自治区内の安心・安全に不安が生じていた。

○自治区内に広大な空き地（斜面）があ

り、環境衛生・景観等の問題が生じていた。

活 動 内 容

季の坂2大スローガンを、会員と小学校6年生から募集し、「地域でがんばる・・・防犯・防災・交通安全」、「夢ひろがるいこいの丘」が決まった。

「地域でがんばる・・・防犯・防災・交通安全」の具体的な取り組みとしては、「門灯を朝までつけておく」、「燃えやすいものを家のそばに置かない」ことの徹底、「児童の登校見守り」、「季の坂防犯・防災パトロール」、「防犯・防災交通安全の啓発看板の設置」を実施し、自分たちのまちは自分たちで守る意識を醸成した。

「夢ひろがるいこいの丘」では自治区内に2箇所ある公園の整備・清掃、空き地（斜面）にソメイヨシノ植樹等の取り組みを行なっている。

植樹については、新一年生とその保護者を対象にして実施し、ネームプレートに植えた人の名前を書き、手入れまで行なっていく。

工夫している点・アピールしたい点

「季の坂防犯・防災パトロール」に関しては今年で5年目を迎えるが、夜間にもかかわらず全戸参加で実施できている。「夢ひろがるいこいの丘づくり」では、子どもの成長とともに桜も成育し、季の坂がふるさとであるということを意識してもらえればと考えている。

活動の成果・今後の展望

「防犯・防災パトロール」で培った連帯感や「いこいの丘づくり」で生まれた親子の絆こそ、いざという時に役立つと確信しています。今後2大スローガンの下、地域全体で様々な活動に取り組んでいきます。

地区内伝統行事の継続と発展

東八幡自治会

会長 福田 紀彦

き っ か け

地域住民同士での地域コミュニティの場が少なく、世代間の交流が不足しているため、自治会活動への参加人数が減少し、連帯感が希薄化することで、地域の活性化が図れなかった。

活 動 内 容

① 三世代餅つき大会

子どもから高齢者までが参加する餅つき大会を実施。高齢者が子どもに餅のつき方を教えるなどして交流を深めるとともに、餅をつかない（つけない）人も気軽に参加でき、気兼ねなくおしゃべりできる環境を整えている。

② 供養盆踊り大会

自治会・子ども会が主体として、各団体会有志の協力も得ながら、供養盆踊りとともに、ポップコーン作り・ヨーヨー釣り・風船アート・お楽しみ抽選会を開催し、三世代で楽しめる地域コミュニティイベントとなっている。

③ 集会所・公園の清掃

集会所及び公園の清掃を不特定多数の有志で行っている。自由参加で実施しているが、子どもや大人合わせて40名以上の方に、参加して頂いている。

工夫している点・アピールしたい点

地区内の伝統的な催しを地区の各団体や有志の協力の下、子どもからお年寄りまでが参加し易く、参加したいと思ってもらえるものになるよう工夫している。

また、高齢者は行事への参加を通じて生きがいを感じ、親子の関係も強くなり、住民の親睦・融和を深めることが出来た。

活動の成果・今後の展望

催しに参加する子ども、大人の数が倍増し、自治会活動に対する理解も示してもらえるようになり、地域住民の挨拶が盛んになるなど、地域コミュニティの活性化に大きく寄与した。

今後もう少しずつでも地域が活性化できるように、自治会を主体に各種団体及び地域住民と協力し合い、安心で安全なまちづくりに努めていきたい。

出産祝金制度の創設

二又町内会

会長 岩本 修一

き っ か け

町内会の慶弔時の規程の中に、弔辞の部分はあがるが、慶事の部分がなかった。

活 動 内 容

町内会加入世帯が出産した際には、組長を通じて町内会長に報告してもらい、担当の民生児童委員と出産祝金を届けている。

工夫している点・アピールしたい点

出産祝金を届ける際に民生児童委員と一緒に訪問することで、子育て支援の「おおきなあれ」(南大分地区)の民生児童委員が開催している子育てサロン()への参加のお誘い等も一緒にしている。

この制度を知らなかったという人もあり、これまでに3回、回覧等でお知らせするとともに、出産から一年以内であれば、いつでも申請できるようにしている。この出産祝金の子育ての一助になればと考えている。

活動の成果・今後の展望

出産祝金を届けたお宅の方が実際に子育てサロン「おおきなあれ」に参加するようになったことで以前よりも参加者が増え、コミュニケーションがスムーズに図れるようになった。

あいさつ運動と防犯パトロール

羽屋町内会

会長 高屋 亨

活動内容

① あいさつ運動

毎週月曜日、午前7時15分から午前8時まで、豊府小学校南側歩道付近において小学生等にあいさつの声かけを行っている。

幼稚園児については、横断歩道付近手前において保護誘導活動も行う。

② 防犯パトロール

毎週水・金曜日、午後5時から午後7時まで、町内の神社・公園等を重点に巡回。

少年等に対して声かけを行い、各種犯罪の防止に努めている。

○「パトロールをしているため車上荒らしがなくなった」と、大分中央警察署南大分交番から話があった。

活動の成果・今後の展望

○ほとんどの小学生が元気にあいさつを返してくれるようになった。

○現在、役員のみで活動しているので、今後各種会議の際に多数の方の参加を呼びかけていきたい。

きっかけ

大分スポーツパーク、大分県立病院等においての車上狙いや小学生等に対する嫌がらせなどの変質者の出没が多発していた。

工夫している点・アピールしたい点

○平成22年には、豊府小学校の全校集会において、花束及び感謝分を頂いた。

互いに理解し、心を開き、 助け合う自治会づくり

永興自治会

会長 赤木 保

き っ か け

隣近所に誰が住んでいるかわからないなど、地域住民の絆が希薄になっていた。

活 動 内 容

課題を解決するために、互いに理解し合い、心を開き、助け合うことの出来る自治会となるように、以下の事業に取り組んでいる。

① 子育て講演会

他者に対する思いやりの心が地域に根ざすことを目的として、平成10年より児童生徒を含む地域住民を対象とした地域の子育て講演会を実施している。

② 南三陸町産秋刀魚の購入

他者に対する思いやりの心を持ち、東日本大震災の被災地に対して何かできないかと考え、南三陸産秋刀魚の購入を自治会内で呼びかけた。

③ 草の根懇談会の実施

毎年年末にかけて役員や組長会議を実施し、年間行事の反省と意見交換を行い、その際に人権に対する考え方・行動について学びあう「草の根懇談会」を実施している。

工夫している点・アピールしたい点

○「草の根懇談会」では毎年組長が交代するので、自治会内の多くの人が人権について学び、自分の行動を振り返るいい機会になっている。

活動の成果・今後の展望

○秋刀魚購入については、多くの方の協賛を受け、74箱を取り寄せ、売上金を送金することが出来た。

○自治会活動の理解と協力が得られることが大切であり、これからも良い地域づくりに努めていきたい。

まちづくり協議会による自治会運営 とOJTによる人材育成

新貝自治会 会長 小野 悟

きっかけ

地域住民間のコミュニケーション不足
と、地域活動に関わるリーダーの不在。

活動内容

① 地域活動者合同研修会

地区内の各種団体が集まり、年間行事
についての打ち合わせを行っている。

② 世代間交流スポーツ大会

スポーツを通じて地域住民の交流と健
康づくりを図っている。約300人参加。

③ 新貝ふれんど夏まつり

地域住民の連帯感を深め、世代間交流
を図っている。約3000人参加。

④ 慰霊祭及び供養盆踊り

地域住民がふるさとを大切にすする気持
ちを育んでいる。約200人参加。

⑤ 自主防災訓練

地域住民の防災意識の向上に努めてい
る。約150人参加。

工夫している点・アピールしたい点

以前からの住民のみで新貝の地域づく
りを担うのではなく、転入者や若い世代
にも自治会の役職に就いてもらい、実際

の地域運営を行なっていく中で、次世代
の人材を育成している（※1 OJTに
よる人材育成）。

広範囲の地域（新貝地区は5町から成
る）を活性化していくには、幅広い年代
の参加が不可欠と判断し、1町から2名
以上の評議員を出してもらい、まちづく
り協議会を結成している。

※1 OJTとは？ ↓具体的な仕事を
通じて仕事に必要な知識・技術・技能・
態度などを意図的・計画的・継続的に指
導し、修得させること

活動の成果・今後の展望

これまでの取り組みにより、地域行事
に参加する住民の数は年々増加しており、
新旧住民との交流や世代を越えた交流が
徐々に図られてきている。今後とも、住
民が一体となって、私たちの地域を次の
世代に引き継げるよう責任を持って地域
づくりに取り組んでいきたい。

グミの木・かずら伐採大作戦

公園通り自治会

会長 石崎 一三

き っ か け

公園通り外周部の管理が行き届かず、自然増殖したグミの木とかずらが繁茂して在来種の里山の樹木などが侵食されて一部は枯れてしまう状況となっており、冬季などは枯れた木や葉が発火するといふ心配もあった。

活 動 内 容

平成23年4月に住民有志でプロジェクトチームを結成。数年計画で実施することに決まる。

平成23年5月には1丁目法面の伐採・排除を実施し、9月には市から頂いた桜の木を植樹。2丁目法面は、グミの木・かずらの伐採・排除は葉の落ちた冬場に行う事が良いとの結論より、平成24年2月から3月の間の日曜日4日間を実行日と定めて住民全体に参加者を募る。

平成24年2月5日、ボランティア約50名の参加者を得て、2丁目東法面の伐採に取り組み、約7割の伐採が完了。

今後プロジェクトチームを中心に実施計画を作り、美化に取り組む。

工夫している点・アピールしたい点

ボランティア参加ベースで実施してい

るが、2月5日は50名程の参加者を得て大きな進展があったことは、多くの住民が住宅地の外側のエリアを含めて街全体を綺麗にしていこうという高い意識と郷土愛を共有しているからだと感じている。

活動の成果・今後の展望

○仲間意識を強くさせ、お互いよりの緊密な気持ちを持てた。

○観光バスが観光に来ることもある。大分市の名所にしていきたい。

○財団法人 住宅生産振興財団の、「住まいのまちなみコンクール」の住まいまちなみ賞を受賞。

○今後は、この活動を通してより良い住民どうしの交流を深め、良い環境・安心・安全なまちづくりに役立てていきたい。

梅が丘納涼広場 (まつり)の企画運営

梅が丘西町自治会
会長 木村 善信

活動内容

6月に「梅が丘納涼広場」準備会を設立して資金集めやまつりの企画を協議し、例年7月末に実施している。

まつりの内容は、地元吉野の臥龍梅音頭、チキリンばやしの踊り、フラダンス、日本舞踊の発表会である。

また出店については、班長だけでなく、自治会内の子ども会や婦人防火クラブにも出店してもらっている。

の場にもなっており、交流が図られている。

○企画から運営までが全て手作りのまつりである。

活動の成果・今後の展望

「梅が丘納涼広場」の実施により自治区内がまとまり、清掃活動や防災訓練にも多くの住民が参加している。先日行われた吉野梅まつり前の清掃活動にも多くの住民ボランティアが参加した。

きっかけ

地域住民のふれあいや交流のためのもつりを、継続して実施している。

工夫している点・アピールしたい点

○このまつりは、23年間継続して実施しており、吉野校区の子ども達が楽しみにしている。

○住民がまつりの成功のために打ち合わせを重ねることにより、住民間のふれあいを

集落内道路付近の立木の伐採と草刈

伊与床自治会

会長 吉田 武勝

き っ か け

当地区内約3kmは市道で結ばれ、約50%が改良され片側一車線となっている。

改良当時はそれまでの道路環境とは一変し、快適な通行が可能となったものの、年月が経過するにともない、道路両側の立木や竹は大きくなり、次第に道路を覆い幅員が狭くなり通行の支障となった。また、台風等の災害時は、倒木が特に通行の支障となり、片付けも地区住民の負担となった。

活 動 内 容

「ご近所の底力再生事業」が引き金となり、21年度から市道沿いの立木等伐採を3年計画で実施することに決定。

伐採作業は、高所作業車や小型バックホーをリースし、区内のみならず区外に転出した若者にも協力してもらいながら、当初の予定どおり平成23年度に作業が終了した。

また立木等の伐採のみではなく、年2回の草刈作業も実施している。

工夫している点・アピールしたい点

当集落には、伝統文化である深山流の神楽が明治初期より継承されており、その楽員18名は、伊与床集落づくりの中核的な役割を果たしている。区外に転出している楽員も多いが地区住民と一緒に地区の課題解決（伐採作業や草刈作業等）に協力していただいている。

活動の成果・今後の展望

市道の幅員は広く感じるようになり、改良当時の良好な状態となった。

来年度以降は、道路上に落ちた土の除去や草刈、側溝の内の落葉、落石、土の除去作業を「ご近所の底力再生事業」を利用して実施予定である。

引き続き伊与床神楽の楽員や地区外転出の若者達と協力しながら我が伊与床自治区を盛り上げていきたい。

ゴミステーションの美化活動

敷戸新町2区自治会
会長 甲斐 大和

き っ か け

約140世帯が共用する不燃物・資源ごみのステーションが、数年前からごみが散らかり放題となり、不衛生な上、ポイ捨ての恰好の場となっていた。

活動内容

平成23年に、ゴミステーションの美化・整理整頓に取り組んだ。

2月 ごみステーションの床のコンクリートを打ち直し、清掃しやすいように改修。その際、溜まっていた全てのごみを一斉撤去。

4月 再びステーションが散らかっていることが役員会議で問題提起され、毎月ごみの正しい分別と収集日の厳守を呼びかけることに決定。

5・6月 改善が見られないため、「一人ひとりに共用の場をキレイに使うという意識をもたせるためにはどうしたらよいか」ということを住民に呼びかけて、一緒に考えてもらう。

7月 輪番制の掃除当番がきちんと機能していないためごみの散乱が悪化しているという意見があり、この問題を解決する手立てを話し合う。

8月 掃除当番を一世帯一週間から一世帯一日に変更。各班で当番表を掲示し、お互いに気をつける。クリーン推進員による見回り、監視の強化。

12月 さらに注意喚起のため、ゴミステーションに啓発用看板を設置。

工夫している点・アピールしたい点

○掃除当番の役割として、回収されずに残ったごみを一箇所にきちんとまとめて整理整頓し、分別もし直すということを付け加えた。

○掃除方法をカードに明記し、掃除用具入れの鍵と一緒に回すようにした。

○ごみ収集カレンダーを掲示し、収集日とごみの正しい分別の徹底を図った。

活動の成果・今後の展望

○住民からは以前よりステーションがきれいになったという声が上がっている。

○一人ひとりが責任を持って掃除することで、身勝手なごみの出し方をする人も少しずつ減少している。

○より多くの人に自治会活動に参加してもらうことで、今後も現在の活動を継続しつつ、地域全体に広げて行きたい。

高齢者が参加しやすい自治会づくり

光吉新町自治会
会長 小林 哲

き っ か け

○少子・超高齢化、IT情報化の進展による町内住民のつながりの希薄化、ふれあいの場の減少。

○ふれあひまちづくりの更なる取り組みの必要性。

活 動 内 容

○やさしい、あたたかい、住みよいまちづくりのために、すべての住民が集いやすい居場所の充実。(集会室等のバリアフリー化、車椅子使用トイレの設置、パタックコート)の整備)

○出会い、ふれあひ、支えあひを進めるため、町内ペタンク大会及びふるさとふれあひ祭り(子ども・大人綱引き大会、三世代グランドゴルフ等)の実施。

○高齢者同士の交流を深めるための、「高齢者の集い(大型スクリーン、プロジェクターによるビデオ・DVD鑑賞会)」の実施。

○子ども会、自治会員による夏季合同ラジオ体操でふれあひ健康づくり。

工夫している点・アピールしたい点

○超高齢化しているなかでも、健康づく

り、地域での子育てを継続して取り組むために、常に活動の見直しを行っている。

○子どもから高齢者までを対象とした幅広い活動計画、視点での取り組み。

活動の成果・今後の展望

○一人暮らしの高齢者から「ふれあひのある町ほどに明るさが 笑顔笑顔結ぶ新町」という短歌が寄せられた。

○集会所が、高齢者が楽しみにするふれあひ、つどい、憩いの場へ。

○町内ペタンク大会による三世代交流。

○町内の各団体・組織それぞれで実施していた事業が、皆で協働して行うようになってきており、ボランティア活動の拡がりがみられる。

○ふれあひ事業をさらに発展させる人づくり、自治会活動への協力、参加の呼びかけに努めたい。

ふれあい広場（秋のおまつり） の企画・運営

ふじが丘山手区自治会
会長 指原 久嗣

き っ か け

自治会活動に参加する方が高齢化、固定化しつつある中で、幼児から高齢者までが参加でき、地域を活性化できる行事を模索していた。

活 動 内 容

自治区内の人々すべての連携により、ふれあい広場の準備・運営を行っている。

○メイン会場で役員・組長・子ども会、山寿会（高齢者会）、自治区内の有志で行う模擬店。23年度は震災への寄付を目的にバザーを実施。

○ステージでは外部団体の賛助出演もあり、一層の盛り上がりを見せている。

○子ども会のお神輿・山車が区内を一周。元気な声が町内を明るくし、おまつりに花を添えている。

○70歳以上の方には招待状を配布。

○全世帯に対して手製のチラシを配布し、来場世帯にもれなく粗品を進呈。全員に福引券を配布し大抽選会、最後に紅白のもちまぎを行う。

工夫している点・アピールしたい点

○メインステージの賛助出演者、ガス・電気の設置以外はすべて住民で計画し、運営している。

○四代の会長に引き継がれ、23年度で15回を迎え、好評を得た。

○子ども頃参加した人が親となり、子ども連れで参加する姿が増えてきている。

○地域の活性化を目的に、自治区内すべての組織・住民が連携して「ふれあい広場」を盛り上げている。

活動の成果・今後の展望

○赤ちゃん連れから80歳、90歳の方々も会場に出向き、ふれあい広場を楽しむなど、地域の一体化が図られている。

○あまり会う機会のない方々がふれあい、地域住民の連携が図れている。

○地域の活性化と特色（創造）に繋がっているので、今後、新たな発案に取り組みたい。

青壮年部会による勉強会の開催 と人材育成

大柳自治会
会長 漆間 義孝

き っ か け

現在約360名が生活しているが、新しく大柳地区に入居される方も多くなってきたことから、交流を深めお互いに研鑽する事と、地区内の活性化を目的に、青壮年部会を設立した。

活 動 内 容

青壮年部会の主催で、その時々の課題に沿った勉強会を部内講師や外部講師を招聘して実施している。

工夫している点・アピールしたい点

○年金問題やごみ分別あるいは教育問題、金融問題など会員にそれぞれに詳しい職業の人がいることから、自治区内の人材を活用しながら勉強会を開催している。また、勉強会で学んだことを地域活動にフィードバックすることができており、自治会内の人材育成にもつながっている。

○自治区内居住の市の職員が講師となりごみの分別を指導、県職員が道路等の整備計画・状況について解説するなど、職員地域参加も盛んである。

○チラシの回覧や地区内放送で自治区内全てに参加を呼びかけている。

活動の成果・今後の展望

○地区住民の方にも参加を呼びかけているため、地区住民の青壮年部のこの取り組みに対する認知は十分である。

○また、地区内清掃や防災訓練などについても青壮年部会員が積極的にリーダーシップをとって、地域活動の中心的な役割を担っており、各種行事が大変スムーズにできている。

○今後は地区内に限らず地区外（校区、市）などにも呼びかけを行なっていくことを考えている。

地区独自の工夫を加えた災害マップ

大在浜自治会
会長 梅田 勝美

き っ かけ

災害時に一番の課題である生活用水の確保と、消火栓のある場所や要援護者が住む場所の把握が出来ていなかった。

活動内容

「安全・安心な街・大在浜区」を目指して

過去の大災害時に、生活用水の確保が一番苦労するという話を聞いていた。そこで災害時の生活用水を確保するために、当地区内の一部家庭にある「井戸水」に着目し、地区内の井戸水調査を実施するとともに、市の協力を得ながら水質検査と「井戸マップ」の作成を行った。

また同時に、災害に備えて「消火栓」の設置場所と「要援護者」が居住する住宅を記した「消火栓マップ」と「要援護者マップ」も作成。

以上のマップに、災害時の心得や緊急時の対策なども掲載した「我が家の防災」と題した冊子を作成し、地区内の全戸に配布した。

工夫している点・アピールしたい点

○活動が合同新聞に取り上げられたり、全国版の3・4年生社会科教科書に採用

されるなど、小さな地区の取り組みが全国へ発信できた。

○市からだけではなく、民間の地図製作会社からも地図情報や価格面で全面協力してもらった。

活動の成果・今後の展望

○地域住民からは、非常に分かり易く良いものを作ったとの評価をいただいている。

○今回の配布を機会に防災訓練を定期的実施しており、参加者も年々増加してきた。

○今後は、集合住宅に住む方々に訓練に多数参加していただけるよう、呼びかけていきたい。

住みたくなるまちづくり 「花いっぱい運動」

平野自治会 会長 狭間 昭夫

き っ か け

市道汐見・竹下線の道路整備に伴い、「新旧住民のふれあい」や、「地域生活環境の美化」が喫緊の課題となっていた。

活 動 内 容

道路片側160mの両側にある総植付け面積約300坪の花壇に、6000株（うち球根2500株）を定植し、年間を通して多種多様な花を育てている。年間を通じてボランティアの方を中心に草取りや水やりなど、花壇の管理を行っている。

工 夫 し て い る 点 ・ ア ピ ール し たい 点

○年間を通して四季折々の花が鑑賞できるようにブロックごとのこまやかな維持管理や勉強会を実施。
○高齢者を中心にしたボランティア以外に、子ども会やその父兄にも声をかけ地区住民だれでも気軽に参加できる体制にしている。
○子ども会にネーミングを募集し「平野区フラワーストリート」に決定（するなど子ども

も会と保護者を巻き込んだ運動を展開。
○花作りの先進地区にノウハウを学んだり、地区外の団体から花苗をいただくなど、花作りを通して交流にも努めている。

活 動 の 成 果 ・ 今 後 の 展 望

○区民全員が自分たちの「花壇」という意識を持つようになった。
○花壇づくりを通じて、当初の課題であった新旧住民のふれあいと融和が図られるようになり、「連帯感と活性化」に繋がっている。
○大在を象徴する花壇と言われるまでになった。
○「花壇づくりや人づくり」を参考にしようとして、APU留学生ほか様々な団体が見学研修に訪れた。
○さまざまな方々の「ふれあい」のきっかけづくりとなっている。
○今後も地域のふれあい事業としてさらに発展させていくとともに、地域からの情報発信にも努めていきたい。

新旧住民の交流と 若者の自治会活動参加を促す取組

横塚自治会 会長 志水 寛

き っ か け

○地域行事の運営をめくって新旧住民の対立や意見の相違があり、そのことで日常生活に不和や不信任が広まっていた。

○高齢化が進む地域では、神輿担ぎや班長、体育委員のなり手がいない等、自治会活動の運営に支障をきたす状況が発生。

活 動 内 容

地域住民の交流活動を推進（既存の地域行事以外で）

○公園まつり↓子ども会・老人会・婦人会・一般参加者など300名程度が、玉入れ・宝探し・綱引き等をして交流する。また、併せて防災訓練も実施。

○絵本の読み聞かせ↓主にアパート住民や新築家庭を対象に親子の交流を図るために、年間7回実施している。

○健康体操教室↓退職者や高齢者の交流を図るため、年間7回実施している。

○団体育成活動↓若い人々の交流を図る場として、地域活動へ参加する団体を育成している。

工夫している点・アピールしたい点

○若い人々のグループ化、団体育成を図ることで、若い人々の地域活動参加や自

治会活動活性化の起爆剤にして、安心・安全、住んで良かった地域にする。

○交流活動の機会を作ることにより、新しい住民との信頼関係や絆づくりを進め、地域の連帯感や協働意識の醸成を図る。

活動の成果・今後の展望

○地域活動に若い人の力が入るようになり、徐々に問題や課題が解消される方向に進んでいる。特に神輿担ぎは顕著である。

○スポーツ活動などで成果がみられるようになり、成績も良くなっている。

○若い人同士の交流が盛んになり、新旧住民の意思疎通が図られている。

○今後はアパート・借家に住む人々との交流を促進するとともに、輪番制、当番制により行われている自治活動の弊害を除去し、より自治会活動を活性化させていきたい。

北区「子ども見守りたい」

北自治会

会長 内梨 睦夫

き っ か け

変質者による事犯が多発し、いかに子どもを犯罪から守るかが地域課題であった。

理念は「地域の子どもは地域で見守る」

活 動 内 容

北自治会、青少協、子ども会のタイアップによる防犯パトロール活動。

○月・水・木を活動日とし、児童の下校時間に登録者が防犯パトロールとして「子ども見守りたい」のタスキを掛けて地区内を巡回。

○火・金は子ども会が巡回。

登録者は全区民を対象とし、あくまでボランティアとして強制はしない。できる人ができるときに参加する。

工夫している点・アピールしたい点

○全区民が参加できるような体制作り（一般住民と保護者の連携）。

○「隊」を使用せず「たい」としたことで、地域全体で「子どもを見守っていきたい」という願いを込め、全区民の自主

的な参加意識を高めた。

○啓発用ワッペン「いかのおすし」を新1年生に配布し啓発している。

○犯罪は人気がない場所や一人だけになったときに起こることから、広域に多くの人が子どもに声掛けを行っている。

活動の成果・今後の展望

○子どもたちのあいさつへの意識が変わってきた（地域内でのあいさつなど）

○区民の協力体制が出来た（アンケート結果）

○登録者の意識の変化（当番日のみではなく、常時子ども見守り、声かけなどの実践）

○今後、登録者増はもちろんのこと、登録していない人を巻き込んだ地域をあげた「あいさつ」に取り組んでいきたい。

久土地域フォーラムの立ち上げ

久土自治会

会長 江藤 哲夫

き っ か け

○自治区内のコミュニケーション不足による近隣との付き合いの希薄化。

○農業を基幹産業とする地域でありながら耕作者の高齢化から耕作放棄地が年々増加傾向にあり、これに歯止めをかけなければならぬ。

活 動 内 容

平成18年、世代間のコミュニケーションがとれ、地域が一体化し活き活きとした地域になるための組織、久土地域フォーラムの立ち上げ。

○事業1 環境美化

花いっぱい運動・耕作放棄地を自治区で借り上げ、年2回（春・秋）花壇作り。

空き缶拾ってバスツアー・道路、河川、家庭で集めた空き缶を資金化し、年1回バスツアーを実施。今年で4年目。

○事業2 スポーツ趣味関係

菜の花ウォーキング、ゲートボール大会（子どもから大人まで）、魚釣り大会、泥田バレーボール、ミニバレーボール大会

○事業3 伝統文化の復活

久土神社かぐら大会（4月）、虫追いまつり（7月下旬）の実施。

○事業4 耕作放棄地解消対策（企業と連携）

平成23年度JR九州「おおいたファーム」と小野地区耕作放棄地地権者（13名）との間で土地の賃貸契約が結ばれた。

工夫している点・アピールしたい点

○花苗づくりやしめ縄づくりを通じて資金や活動費を工面できるようになった。

○活動がマスコミに取り上げられたり、地区外から地区の花畑を見に来る人が現れはじめた。

活動の成果・今後の展望

○子ども達も親御さんと共に様々な行事に積極的に参加するようになり、ふるさとを大切にする気持ちが醸成され、地域の交流がさらに活発になった。

○若者は明日の社会や家庭を引き継ぐ者、協働活動を通し、コミュニケーション能力を高め、相互理解することで信頼感を構築したい。

○作業を通し、老年・青年の交流が図れ、よい雰囲気になっている。

大分東高校と連携しての 花いっぱい運動

川南自治会
会長 塩地 成元

き っ か け

川南地区は大分東高校自転車通学生の実質的な通学路になっているが、区画整理ができていない狭い道路で、住民から通学態度に苦情がだされていた。

活 動 内 容

大分東高校はボランティア活動に積極的であったこともあり、相互理解を深めるために、地域と東高校生との協働活動に取り組むことにした。

○手入れが行き届かず「雑草マス」になっていた道路植栽マスの手入れを住民と高校生の協働の活動として取り組んだ。

○市に説明して植栽マスを花畑にすることにした。

○農業従事者に相談し、古いハウスの骨組みやビニールを使用してビニールハウスが完成。2000～3000本の育苗。

○地域の協力者を募集し、約40名が応募。

○平成17年度から年2回（春・秋）、活動時間1時間以内で、地域住民と東高校生との活動を継続中。

工 夫 し て い る 点 ・ ア ピ ール し たい 点

○協力者、高校生ともに決して強制しない。活動時間も1時間以内。

○参加していない住民にも理解していただくよう「川南通信」で趣旨・活動状況・成果等の広報に努めている。

○育苗、耕運、施肥、水やり等は執行部、協力者を中心に進めている。

活 動 の 成 果 ・ 今 後 の 展 望

○活動を始めてから、高校生から「挨拶」の声が聞こえるようになり、住民からの苦情がなくなった。

○若者は明日の社会や家庭を引き継ぐ者、協働活動を通し、コミュニケーション能力を高め、相互理解することで信頼感を構築したい。

○作業を通し、老年・青年の交流がよい雰囲気になっている。

市西防犯パトロール隊

市西自治会

会長 河野 威

活動内容

- 子ども達や高齢者の安全確保のため、平成16年にパトロール隊を結成。
- 21名の会員、4チームで週2回、パトロール、見守りを実施。

○危険箇所が多いため、地区子ども会、学校と協議し、集団登校、通学路の一本化、下校時間の周知。子ども会、学校、パトロール隊と共同で事故防止と安全に努めている。

していることを、周囲にアピールしている。

○隊員の高齢化が進んでいるが、小学生の数は校区内では多い地区のため、見守り、声かけ、パトロールの重要性は増している。

活動の成果・今後の展望

○地区内の子ども達が通学時、顔をあげ、地区内の人達へのあいさつができるようになった。

○子ども達から「いつも見守ってくださいありがとうございます」と大変嬉しい言葉があり、今までの苦労が実ったと喜んだ。

○交通事故・その他の事故がなくなった。

○今後はこれらの活動が校区内に拡がり、多数の人々が運動に参加されることと、事故が減少することを望む。

きっかけ

区画整理終了後、若い人達の入居、子ども達の増加、また他地区からの往来が増加したことに加えて、地区内にはJR踏切、交通量の多い国道197号線があるため、交通事故や不審者からの安全確保が必要となっていた。

工夫している点・アピールしたい点

○子ども達の顔を見て声をかける。子ども達の顔や名前を覚える。

○自治会の行事、催物等の日時を教え参加を促す。

○自治会からも隊員に帽子、ジャンパー等を支給し、遠めからでもパトロールを



ふれあいフェスティバルの様子

地域の連携を高めるきっかけづくり

自治会連携部門
23年度優秀賞

敷戸校区ふれあいフェスティバル実行委員会
会長 森永 俊夫

き
っ
か
け

「学校の週休2日制」導入により休日となった土曜日を活用して、子供たちをまき込み、「地域の連携を高めるきっかけ」となる行事をしようと考えた。

活
動
内
容

実行委員会

敷戸校区内11の諸団体（連合自治会・体協・青少協・ふるさとづくり協・小中学校PTA・老人クラブ協・民生児童委員連絡協・エイトクラブ・ボランティア敷戸・校区公民館・社協）で実行委員会を設け、主催者となった。

行事の内容

○グラウンドゴルフ大会 自治会ごとに小学生から高齢者までのチームを編成し、教え合ってゲームを楽しむとともに「地

域のふれあいの場とする」(体協企画・工
イトクラブ運営)。

○子どもクッキング 小学1年生から6
年生約30名のクッキング教室生が地域の
指導者と民生児童委員が一体となった地
域の料理などを作り、高齢者を招待して
交流の場を持つ(民生児童委員連絡協企
画運営)。

○観劇会 県外からの劇団や人形劇など
を呼んで「映像でない劇」を観賞する。(青
少協が企画運営)。

○餅つき大会 地域の諸団体が、もち米
50キロを提供し、諸団体が集まって餅つ
き大会の体験や試食を無料で行なう。中
学生もつく・丸めるなどの支援に駆けつ
ける(全実行委員会運営)。

○綱引き大会・ビンゴゲーム・どんど焼き
(綱引き 体協が企画運営、ビンゴ 小
学校PTAが企画・運営、どんど焼き 実
行委が企画運営)。

○百人一首カルタ大会 1月末に小学生
を中心に開かれる(青少協が企画運営)



「どんど焼き」の様子

工夫している点・アピールしたい点

スタート時は一部の限られた団体等で
取り組んでおり、「発案した団体を手伝う
行事」という意識が存在していたが、回
数を重ねるにつれ徐々に「地域の総力を
挙げて取り組む行事」へと意識改革がな
されている。

実行委員だけで運営するのではなく、
地域の有志が「餅つき大会」や「どんど
焼き」で自主的にそれぞれの技術的な要
領や安全への配慮等を指導する場面が回
数を追うごとに多くなってきている。
小中学校およびPTAの積極的な支
援・協力もあって参加人員が年を追って
増加傾向を示している。

活動の成果・今後の展望

「校区ふれあいフェスティバル」は、
校区間住民の「顔と顔」からさらに「心
と心」の連携をめざすものであるが、こ
の行事を創りだす協働の活動を通して、
「創り手」の人間関係の深まりも実感で
きている。

住民に「このままの隣近所の“お付き
合い”で良いのか」という「連携の現状」
を見直すきっかけとなるような行事でも
ある。今後子どもから高齢者の方まで
参加し、校区の絆を深める行事として継
続していきたい。

シバザクラ・文化祭による団地内活性化

自治会連携部門 富士見が丘連合自治会
23年度奨励賞 会長 佐々倉 幸義

き っ か け

富士見が丘団地は、昭和46年の造成以降、人口7600人、世帯数は約3000世帯を超える大規模団地となった。

しかし、年月が経過するにつれ、少子高齢化が進み、家庭や地域での人と人の繋がりも希薄化してきており、まちづくりを進める上での大きな課題となっていた。

活 動 内 容

① 地域コミュニティの活性化をめざし、「近所花畑運動」に取り組んでいる。

これは地域全体をひとつの花壇としてとらえ、「近所花」に選定した「シバザクラ」で花壇を作り上げるものである。

住民一人ひとりに「近所花」を地域の花としてとらえてもらい、取り組みに参加してもらうために、全世帯を対象に苗を無料配布した。

「近所花畑」を発展させることで花が地域の共通財産となり地域コミュニティの活性化にもつながっている。



シバザクラ苗植え作業

② 魅力ある団地づくりを目指して、富士見が丘公民館をメイン会場として文化祭を実施している。

毎年恒例の行事であるが、23年は、会場が手狭になったことや集客改善の観点から、団地を元気にしたいという地区内居住のアーティストの方の了承を得て、自宅の一部をギャラリー風にし、お茶会・写真展・絵画展・水墨画展・アート年賀状展・作陶展・切り絵展などを展示し開催した

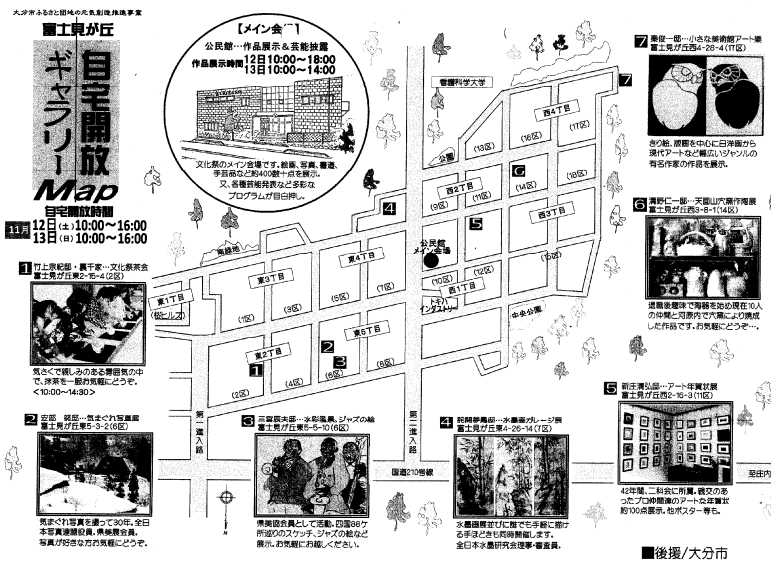
工夫している点・アピールしたい点

「「近所花畑運動」については、富士見が丘青年部が発案だが、青年部だけではなく、自治会、長寿会、わかば老人クラブ、地元商店街、などの200人を超える方がボランティアとして参加している。また、青年部は、新しい試みとして団地内の夏祭りやななせの火群祭りの柱松への参加、地域の子どもを対象に「流れ星演奏会」を開催するなど夢・希望・笑顔あふれる富士見が丘団地創造をめざし活躍している。

活動の成果・今後の展望

○花畑運動の中心を担っていた青年部の熱意に打たれ、多くの人々がボランティアとして参加し、普段かかわりのない人たちが、花植え活動を通じて交流できたことは、今後の地域活性化に向けて大きな力となる。

○文化祭については、地域内外の住民とアーティストとの交流の場ができたこと、静かな住宅街がギャラリーに一変し芸術を身近に感じることができ、大成功であった。今後新たなアーティストを発掘し、富士見が丘団地の自慢の1つとしていけるようにしたい



シバザクラの開花風景



シバザクラ苗植え作業風景

徒歩・自転車による町内パトロール

自治会連携部門 久原区防犯パトロール隊
23年度奨励賞 会長 本田 善男

き っ か け

当地域は、土地区画整理事業が完了し、新しい居住者が増え、人口は増加しているが、従来からの居住者と新しい居住者の融和や、防犯対策、環境の美化などが重要な地域課題となった。

活 動 内 容

① 新旧住民の融和や、防犯・環境対策として地区内でパトロール隊を結成した。23名の隊員が2班に分かれ、月・水・金に徒歩隊、火・木・土に自転車隊で、週6日のパトロールを実施している。

② パトロールは、小学生の下校時刻15時を中心約1時間程度実施しており、地区内を4地区に分け、「火バサミとゴミ袋」を持ち、「ゴミ拾いをしながら子ども

たちの見守り、声かけをしている。併せて、高齢者にも声かけを行い、挨拶を交わすなどして地区内の融和を図っている。

③ 大分東警察署と連携し、「振り込め詐欺」撲滅活動パトロールをしている。

工夫している点・アピールしたい点

① 従来からの居住者と新しい居住者との融和を図るため、4地区に分かれて実施しているパトロールの組合せを、当日のクジ引きで変えている。

また、自転車隊をつくることで、高齢者でも参加しやすいようになっている。

② 参加者は、緑色の帽子にベストを着用し、パトロールをしていることが目立つ服装をして効果を上げている。

③ 3カ月に一度、反省会を開き隊員の意見を聞き、今後のパトロールに活かすようになっている。

活動の成果・今後の展望

①このパトロールを始めて7年になるが、7年間続けている間、地区内では空き巣、自転車盗難等の事例が発生しておらず、防犯面で大きな効果をあげている。

また、パトロール以外の場面でも、住民の防犯意識が高まってきており、安心・安全なまちづくりに住民の力で取り組んでいる。

②パトロール隊への子ども達の挨拶の声が増しに大きくなり、笑顔で元気に返してくれる姿がパトロール隊の励みになっており、今後も継続していきたいという気持ちにさせてくれている。

③パトロールへの参加・声かけ見守りを通じて、従来からの居住者と新しい居住者との融和が出来た。

また、高齢者への声かけを併せて実施したことで、「いきいきサロン」への出席者も増えた。

④タバコの吸殻も見逃さないで拾っているので、活動を始めてから地域は見違えるように美しくなり、ポイ捨てゴミもなくなった。捨うのに加勢する子どもも出てきており、住民の意識の向上も図れている。

地域は日本一きれいなまちとなり、今後も継続したい。



パトロールの様子

地域・世代を越えた交流

荏隈校区自治委員連絡協議会

会長 中山 二郎

き つ か け

荏隈校区（6町内会 荏隈町・大石町・深河内・賀来新川・中の瀬団地・ツインブリザ）では、町内会の域を越えて安心安全なまちづくりを行うことを目的に、地域と世代を越えた交流の場として、毎年「スマイルボウリング大会」を実施しており、今年で20回目を迎えた。

活 動 内 容

荏隈自治委員連絡協議会の主催で、校区の役員・老人会・子供会・交通安全協議会・ボランティア・社会福祉協議会・青少年健全育成協議会・PTA・小学校校長（教頭）などがチームを組んでボウリングで対戦することで、子どもから高齢者まで、普段顔を合わせない方々がスポーツを通して楽しく触れ合う場を作っている。

参加総数 250人（28チーム）

地域の方々が顔を合わせることにより、通学・通勤時などに、あたりまえのように挨拶が交わされる、元気のある街を目指している。

②高齢者にも生きがいのある楽しい老後のため、この行事を通じて健康増進を進めている。

活 動 の 成 果 ・ 今 後 の 展 望

①23年度で20回目を迎えたこの事業だが、今後も継続開催をして地域の活性化に貢献していく。

②この他、荏隈校区では「校区敬老大会」や学校行事を通じて高齢者と子ども達との交流の場、「昔の遊び」・「昔の生活」を展開している。

工 夫 し て い る 点 ・ ア ピ ール し たい 点

①子ども達の「あいさつ運動」、高齢者から子ども達への「声かけ運動」など、地域一丸となった取り組みへ繋がっている。

LED防犯灯で 町も自治会活動も明るく

松が丘連合自治会
会長 河野 実

き っ か け

団地の夜が暗い、不安だという地域住民の声があり、「LED防犯灯」の導入に取り組んだ。

活 動 内 容

「安心・安全な住み良い団地づくり」と「防犯上」の一環として、暗いと言われる防犯灯をLEDの防犯灯に変えることを計画し、あるメーカーに提供を依頼したところ、13灯の提供があり、市内の自治会単位としては初めて取り付けることが可能となった。

取り付け後、「住民アンケート」を行ったところ、「明るい」「歩きやすい」「景観的にもよい」「おしゃれだ」等の肯定的意見と、「価格が高すぎる」「節電効果のみでは問題だ」等の否定的意見の賛否両論があったが、おおむね肯定的な意見が多かった。その後、メーカーの価格引下げや、市の補助制度の改正などもあり、導入が容易になったことをきっかけに、「役員会」や「理事会」で検討を重ね、「LED導入4年計画」を作成した。

あわせて自主防犯パトロールも実施し、地域力で安心安全な団地づくりに取り組んでいる。

工 夫 し て い る 点 ・ ア ピ ール し たい 点

LED防犯灯がまだ広く認知されていない段階だったので、まずは実証展示を行い住民に体験してもらった。

アンケートを行うことで住民の生の声を聞き、そのアンケート結果を住民に公表することで地区内の情報共有をはかったうえで今後の方向性を決定した。

活 動 の 成 果 ・ 今 後 の 展 望

LED防犯灯の設置に加え、自主防犯パトロールに取り組んでいることで、地域の安心・安全は確実に強化されている。

住民の意向把握・計画樹立・実証と体験等という取り組みの過程については、今後の団地内での取り組みはもとより、他地区においても参考になるのではないかと。

大成功した かかし祭りでの 地域活性化

植田校区公民館運営協議会

会長 後藤 幸蔵

き っ か け

植田校区は住民の連帯意識や思いやりの心は十分にあるが、最近の少子高齢化の現実を見ると、一層絆を強めて安心安全の街植田、住みよい植田をつくりたいという思いがあり、そのため三世交代流の場や自治会相互交流の場を創出することが課題であった。

活 動 内 容

平成21年、22年に中津市山国かかしワールドを見学し、かの地の住民の連帯意識、地域おこしに対する情熱を感じ、助け合い、思いやりの心に感銘を受け、植田でも三世交代流・自治会相互交流の場として住民参加のかかし祭りを実施した。結果、23団体から100体の応募があり、ウォーキング大会の開会式と同時に表彰式を行なった。

工夫している点・アピールしたい点

- 作品のテーマは自由とし、参加者の総意で決めてもらった。
- 参加団体には校区外の企業もあり、人の繋がりのすごさを感じた。
- かかしに着せる古着や帽子は大量に集まりうれしい悲鳴だった。

○来場者投票により賞を決定したが、投票数は1週間で926票あり、関心の高さが伺われた。

○小学校の遠足や介護施設のマイクログラスなど団体客も多く見られ、多くの人が記念写真をとるなどの光景が見られた。

活動の成果・今後の展望

楽しい、うれしい、心が癒される、ほっとする、続けてくださいなどの来場者の声、今年出展しなかった自治会からの来年は出そうと決めたといった意見や、展示場所提供の耕作者の方からも来年度の展示場所提供の快諾を得るなど、早くも来年度に期待が膨らんでいる。

植田は一つの理想から全自治会の参加が望ましいが、初年度は小さくても良い、まずやってみようとしてはじめたものが予想以上の反響がありうれしい限り。この催しを通じて地域の人と人のつながりがより密になり企業と地域の距離が縮まり一体感の芽が吹き始めたと確信している。

メモ





農業体験教室の様子

地域の連帯感を創出した昔の遊び体験

自治会支援部門
23年度優秀賞

東大分匠の会
会長 小野 行雄

き
っ
か
け

東大分地区は、転入者が多く、新旧住民のコミュニケーションが不足しがちだった。

活
動
内
容

木工作や竹工作等の昔の遊びを通じて地域の活性化を図り、地域住民の連帯感を生み出そうと考えた。

新旧住民の区別なく、子ども同士、子どもと大人、大人同士がふれあい、交流できる場を創出するため、自治会をはじめとして、子ども会、青少協や地域で活動する市民活動団体が連携し、地域の子どもやその保護者を対象とした木工教室や農業体験教室を実施している。

木工作を指導したり、作品（竹馬や水鉄砲等）を使って遊ぶことで、子ども達に日本文化として、昔の遊びを継承している。

また、畑での体験農園活動を通じて日ごろ農作物をはじめ自然と接する機会が少ない都市部の子も達に自然と接することで豊かな情操を育む取り組みを行っている。

○夏休み工作教室の開催（自治会、子供会と連携）

○大分東部公民館主催の「子どもフェスタ」にて「昔あそび広場」の開催



昔あそび広場の様子

○地域住民と地域のごみ拾い、その後の焼き芋体験の開催（自治会、青少協と連携）

○しめ縄作り、ミニ門松作り教室の開催（自治会と連携）

○畑での体験農園活動（自治会、子ども会と連携）

工夫している点・アピールしたい点

①子どもと地域住民がお互いに顔見知りになる関係構築に取り組むことで健やかな子ども育成を行っていく。
各行事を行うにあたっては、校区内の自治会との連携を図り、より多くの地域住民が参加できるよう努めている。

②東大分公民館敷地内にある事務局を地域住民や子どもに開放し誰もが気軽に立ち寄り住民同士がコミュニケーションできるようにしている。

活動の成果・今後の展望

①各種活動により、新旧住民また地域住民と子ども達の交流が深まったことで、地区内の連帯感が醸成されてきた。
その結果、子どもから大人への挨拶が

多く見られたり、大人が子どもに声をかけたという声かけ運動に広がりが見られている。

②匠の会事務局を地域住民や子どもに開放し、誰もが立ち寄りコミュニケーションをとることができる場としており、特に子ども達がよく訪れるため、悩みの相談を受けたり、工作等を教えたりすることで子ども達の健全育成に努めている。



木工教室の様子

地域の特性を活かし、連携をとって活性化に

自治会支援部門
23年度奨励賞

くすのき会
会長 藤田 準治

き っ かけ

近年市の中心部に比べ、少子高齢化の進行が顕著であり、年々諸行事の参加者は減り、地域のコミュニケーションも薄れ、地区に活力がなくなってきた。

このような中で、平成13年、楠木生区居住者を中心に青壮年の有志が、青少年の健全育成と区の活性化を目的に、「くすのき会」を発足した。

活 動 内 容

①自治会主催の敬老会に協賛し「ふるさとまつり」を開催している。

「ふるさとまつり」は、子ども会が中心で行うが、その指導やアドバイスをくすのき会が行う。

高齢者と子どもとの交流が図れ、地区を挙げたまつりとなっている。

②農産地楠木生をアピールするため、毎年6月から7月の日曜日にトウモロコシ刈りを実施している。

地区内の耕作放棄地を借用し、会員が土壌作りからはじまり、種まき・草刈を行い、当日は、低価格でもぎたてのトウモロコシを販売している。

③400個の竹灯籠を作製し、年末年始に地区にある神社の境内や名木に設置し初詣客に楽しんでもらう活動や、区所有の公園の整備、草刈や道路側溝の土砂の除去作業の実施など自治会行事の側面支援に取り組んでいる。

工夫している点・アピールしたい点

①自治会や子ども会等と合同の会議を開き、方針と互いの役割を確認している。

②ふるさとまつりの際は、子どもや高齢者が参加しやすいような取り組みを増やし、山車（会員手作り）が子ども達と

ともに地域を練り歩くといいった、世代の垣根を越えた活動ができるよう企画している。



子どもと一緒に地域を練り歩く山車

活動の成果・今後の展望

①各行事とも、地区内外から多くの市民の皆さんが訪れるようになり、楠木生をアピールでき、地域の活性化につながっている。

②高齢者・子ども共に参加者が多くなり、世代間交流の場を提供することができた。

③特にまつりでは、地区内はもとより、地区外の子供も多く見受けられるようになった。

④また、地域行事にあまり関心が無い若い人も積極的に参加するようになってきている。

トウモロコシ狩り

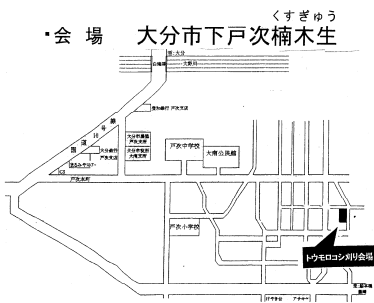
ごあんない

今が食べごろ、甘くておいしい路地栽培のトウモロコシ！！

・日時 平成20年7月13日(日)

9時～

・会場 大分市下戸次楠木生



・雨天決行いたします
・本数に限りがありますので、売り切れご容赦願います。

くすのき会

<http://kusunokikai.web.fc2.com>

第九回楠木生 ふるさとまつり

・とき 4月29日(木・昭和の日)

・ところ 楠木生神社境内

庄内こども神楽がやってくる

焼そば 100円	ジュース 100円	お餅・ピー ル・煎餅	7/9の餅 50円
-------------	--------------	---------------	--------------

特製スタ汁は、無料！

(日程)	
9:30	神事・授会
10:00	子ども山車運行
12:30	出店オープン
13:00	まつり開会式
13:30	庄内こども神楽上演
16:30	お楽しみ抽選会
18:00	終了予定

サービス系のお引き換えは、十五時までに会場引き換えコーナーでお願ひ致します。

※お話をされる方は、お車でのお越しはご遠慮下さい。

主催	共 催
くすのき会	楠木生区・楠木生神社総代



勇気と希望を与えるフラダンス

しあわせの会(健康フラダンス)

会長 安部 洋子

き っ か け

町内に住む高齢者に一人暮らしの人を含む、生きる力と勇気と希望と健康の喜びを与えたいとの思いからしあわせの会

を発足し町民に勇気と希望を与えたいと考えた。

活 動 内 容

平成18年4月に会を発足(65歳以上の高齢者対象、23名が参加)し、町内会の諸行事(敬老会、運動会など)にダンスで参加し、町民に勇気と希望を与えています。

活動の成果・今後の展望

会員が明るく、仲良くなり、会員同士の仲間意識が生まれた。
婆ちゃんの踊りに、子どもも孫も行事に参加し、喜び、応援する三世代参加の場になっている。
今後はもっと町内の人、子ども達にも参加してもらい町内を盛り上げていきたい。

工夫している点・アピールしたい点

月2回の練習日に健康のことなどを楽しく会話し、語りあえる喜びがある。
地域でもすれば孤立しそうな高齢者がきれいなドレスを着て喜び、踊ることで、健康で元気になっている。

見守り活動で10年間事故ゼロ

けやき台老人会

会長 長瀬 俊行

き っ か け

子ども達のために何か役に立てないかと考えていたところ、けやき台からの通学路には3箇所ほど車通りが激しく、危険な箇所があったため、そこに立ち、通学児童の安全確保のための交通誘導を始めた。

活 動 内 容

10年ほど前から、けやき台から、戸次幼稚園及び戸次小学校に通う園児・児童の通学路に立ち、子ども達を見守っている。

交差点などの3箇所に旗を持って立ち、車と児童を誘導し交通事故を未然に防いでいる。

工夫している点・アピールしたい点

この見守り活動は、老人会30人程度でローテーションを組んで実施している。

児童が学校に行く朝と帰りに実施しており、学校が休みのとき以外は、雨の日も雪の日も実施している。

また、夏場には夜間パトロールも実施している。

児童と車の誘導だけでなく、児童への声かけも行っており、児童のコミュニケーション

ーション能力の発達にも役立っている。

活動の成果・今後の展望

活動を通じて、園児・児童とその保護者、老人会の三世代交流が図れており、あいさつを交わしあい、行事の際には和気藹々とした雰囲気に参加するいい雰囲気醸成されている。

見守り活動を開始してから、大きな事故は起きておらず、見守る側としてもほっとしている。

また、幼稚園児の時に見守り活動で顔なじみになった子どもが、高校生になってもあいさつをし、会話をかわすなど、地域で子どもの成長を見守ることができている。これからも微力ながら地域のために貢献していきたい。

地域の財産を守る 縁の下の力持ち

嶺老人会

会長 迫田 一則

き っ か け

大友宗麟の時代を再現し、地域を活性化しようとする「大野川合戦まつり」と「戸次河原戦没者合同慰霊祭」を盛り上げるため、公園をきれいにすることで微力ながら協力したいと考えた。

活 動 内 容

永年、年4回長曾我部公園の清掃をしてきている。

毎年、大分県知事・大分市長も参加して、「大野川合戦まつり」が盛大に開催され、毎年12月12日には、戸次ふるさとづくり協議会主催により「戸次河原戦没者合同慰霊祭」が四国・鹿児島から末裔の方々をお迎えして行われるため、特に直前は念入りに清掃した。

工 夫 つ て い る 点 ・ ア プ ロ ー ル し た い 点

日本一きれいなまちづくりをめざす大分市の方針と、大友宗麟の偉業をこれからもまちづくりに結びつけたいと考えており、その縁の下の力持ちとして頑張っている。

高齢化が進み、なかなか老人どうしが集まって活動する機会が少なくなっている。

るが、この清掃活動には地域の高齢者が一堂に会せる唯一の機会、コミュニケーションの場となっている。この集まりを大事にしたいと思う。

活 動 の 成 果 ・ 今 後 の 展 望

祭りの日以外にも歴史に興味がある人が公園を訪れることが多くなっており、ますます頑張ろうという気持ちになっている。

こういった活動を続けていることに誇りを持ちつつ継続していきたい。

自治会行事に積極的に参加

敷戸エイトクラブ

会長 廣瀬 光明

活動内容

地域の活性化を目的にした活動として、敷戸まつりや敷戸校区社協の行事の一つとしてグラウンドゴルフ大会を担当しています。

また、敷戸校区社協のフェスティバルの行事としても三世交代流グラウンドゴルフを担当しています。

その他グラウンドゴルフ以外にも社協主催のどんど焼き、体協主催の大運動会等に積極的に参加し地域の活性化に貢献しています。

きっかけ

現役を終えた住民が多く、高齢化が進んでいる。

生きがいと健康管理、さらに地域のコミュニティの活性化を目的にグラウンドゴルフ愛好会を平成7年に結成し、現在に至っています。

工夫している点・アピールしたい点

校区内の各種イベントには会員が運営委員として積極的に参加し、中核的な役割を果たしています。(敷戸まつりの運営委員をはじめ、敷戸校区社協主催のフェスティバル、敷戸体協主催の大運動会、

活動の成果・今後の展望

自治会主催の健康づくり行事等の運営)
また、校区内の多目的広場の清掃管理についてもエイトクラブが自主的に引き受け地域の信頼を得ています。

敷戸エイトクラブは、グラウンドゴルフの愛好会ではありませんが、スポーツクラブの活動にとどまらず、地域から頼られる存在となっており、これを更に押し進めることが大切と考えています。

今後は、団地内の高齢化がさらに進み、独り暮らしの老人が増えることが考えられるので、これらの人々が孤独に陥らないよう活動の輪を広げていく必要があると考えています。

地域をあげての ふれあい体育祭

敷戸校区体育協会

会長 金澤 俊夫

き っ か け

近年の著しい高齢化により地域のスポーツ行事は減少し、現在は「校区大運動会」と年3回の「歩こう会」のお世話が主な活動となっている。

高齢社会という局面において、いかに地域行事を活性化し、地域住民に「交流、ふれあい」の場を提供するのが課題となっていた。

活 動 内 容

校区大運動会は、体育協会だけでは盛り上げ・動員に限界を感じていたので、連合自治会を中心として住民の参加意識の啓蒙と動員を図った。

歩こう会は、11月開催の分を連合自治会・校区老人会連合会・校区体育協会の3者共催とし、各方面より広く参加していただいた。

終了後の懇親会に150人以上が参加し、交流・ふれあいの場の提供という目的が十二分に達成できた。

また、校区大運動会は加えて名称を敷戸校区大運動会から、「ここがふるさと!! 敷戸校区ふれあい体育祭」に変更し、子どもから高齢者まで参加できる踊り（敷戸音頭 地域独自の踊り）や防災を意識したバケツリレーを実施するなど、自治会の対抗競技だけでなく、「校区住民の交流、ふれあいの場」の要素を取り入れた。

工夫している点・アピールしたい点

入場行進参加者が多く（今年は1500人）、来賓で来る教育委員会の人が驚くほどである。

30年近い歴史の中、歴代のスタッフの努力と熱意の賜物である。

活動の成果・今後の展望

震災を契機に、人と人との絆、地域の連携、連帯が地域社会で大きく求められる時代になった。

これからも地域住民の交流・ふれあいの場を提供し、子どもから大人まで「いつでも」、「どこでも」、「だれとでも」あいさつをし合える地域文化の醸成、そしてその先にある共助の精神に満ち、高齢者が安心して暮らせる地域の創造を念頭に活動していく。

歩こう会は回を重ねることに参加者が増えている。

大分市内の「名物歩こう会」となるよう、皆で知恵を絞っていききたい。

高齢者も楽しむ 軽スポーツを自治会と 連携してサポート

さんさん(燦燦)会

会長 岡部 敏明

き っ か け

宮崎台自治区内住民の高齢化率は大分市の平均を上回り、独居老人の比率も10%を超えている。

自治会で実施する70歳以上の交流・親睦行事(敬老会)には25%しか集まってこない。

これでは高齢者を含めた住民が安心して暮らせる福祉社会は出来ない。

活 動 内 容

自治会が高齢者を集めた軽運動(室内ペタンク、スポーツ輪投げ)を企画した際に、この活動を円滑にし、支援するためのボランティアを募集し、「さんさん(燦燦)会」と名づけ23年度より活動を開始した。

毎週1回(日曜日)公民館を開放。高齢者のみならず、誰でも利用できることとし、「さんさん会」が運動の指導、支援をしている。運動は室内ペタンク、スポーツ輪投げの2種類を実施。楽しんでもらうことを主眼としている。

また、1人暮らし老人と「さんさん会」との軽スポーツ&食事を実施。この会には自治会、民生児童委員も参加のほか、寒田校区ボランティアが弁当作りを行い、多数の人と交流を図っている。

工夫している点・アピールしたい点

徐々に参加者を増やしながら、子どもから90歳超の人まで楽しんでおり、競技中は笑い声が絶えない。

活動の成果・今後の展望

軽スポーツへの参加がだんだんと増加しており、順調に高齢者の交流・親睦が図られていると感じている。

住民参加型の行事で交流、親睦を行うためには、継続すること、短期間での反復活動が必要である。

今後は更に多くの住民が参加し、楽しむことができるよう、参加できる回数、時間を増やすとともに、更なる会員増加に向けた取り組みが必要である。

食事に關しては、今後機会あることと他のボランティアグループに依頼し、交流の輪を深めたい。

出来る範囲で清掃活動・ 自治会との協力

老人クラブ(長寿会)
会長 神田 和敏

活動内容

毎月1回ずつ、付近の国道沿い・鬼崎
埋立場付近の道路のごみ拾い、公民館・
神社の清掃、花づくりを行うなど、それ
ぞれ出来る範囲で出来ることを少しずつ
やっている。

工夫している点・アピールしたい点

25戸の小自治会ですが、自治会、老人
会が協力しあいながら何事も進めている。
地域づくりには「和」が一番であると思
う。

きっかけ

高齢化が進み、地域の半数が高齢者とな
ってしまっただが、何か元気の出るこ
とができないかと考えて活動をはじめよう
としようとなった。

活動の成果・今後の展望

ポイ捨てごみ対策はイタチごっこな部
分もあるが、参加者はやりがいを持って
取り組んでおり、元気なうちは地道に続
けたいと考えている。

和服のリフォームで 社会貢献活動

ボランティア「秋桜の会」

会長 塩地 キミエ

き っ か け

校区社協の高齢者への弁当サービス事業に協力していたメンバーが、自分たちも校区で困っている人のために何かできないかと考え「秋桜の会」を結成した。

活 動 内 容

病院や福祉施設向けにおむつを縫ったり、和服をリフォームした作品を地域で販売し、売上金で公園に時計を設置したり、福祉施設にクリスマスプレゼントを贈って交流したり、老人クラブで料理を振舞うなどの地元での支援を続けている。そのほかにも、祭典時の炊出しや、植樹マスの手入れ、花づくりにも自治会と協力して取り組んでいる。

工 夫 し て い る 点 ・ ア ピ ル し た い 点

会員の平均年齢は78歳であり、できる活動が限られてきた。

しかし、和服のリフォーム販売は万弘寺の市、アートプラザ、大学学園祭、ことびぎデパート（川南公民館）などで販売し、好評である。

様々なイベントでのお客さんとのふれ

活 動 の 成 果 ・ 今 後 の 展 望

あいは楽しく、お互いが癒されている。物を大切に、使い捨てをせずにまた新しい命を吹き込むリフォーム作業を一針一針真心を込めて仕上げている。“死ぬまでボランティア”が合言葉だが、後継者が育つことを願っている。

会員相互の交流はもとより、福祉施設の方々との交流が深まり、支援の成果を感じているとともに、生き甲斐にもなっている。

また、自治会においても諸行事を通じて、信頼関係が確立されている。

できることから社会貢献

やまゆりの会

会長 宗安 洋助

活動内容

地域住民、健康推進員、民生児童委員や自治委員などと月一回集まって血圧測定、健康体操を行なっている。

脳トシ、レクリエーション、ゲーム等をして要支援にならないようにし、食事で親睦を図っている。

その際に自分たちでもできる社会貢献としてペットボトルのキャップを持ち寄り、それを集めて寄付し、ワクチンに換える活動を続けている。

活動の成果・今後の展望

4年間の活動でキャップの重量124kgになり、31人分のワクチンを送ることができた。微力な活動かもしれないが、今後も続けていきたいと思う。

きっかけ

高齢者だからといって人の世話になるだけではなく、できる範囲のことで何か人の役に立つことをはじめようと思った。

工夫している点・アピールしたい点

高齢者でもお世話になるだけでなく、何か社会貢献ができないかを考えて行動している。

強制をせず、長く継続していきたい。

メモ

